

平成 28 年 度

平成 28 年 4 月 1 日から

平成 29 年 3 月 31 日まで

事 業 計 画 書

大阪府中央区上町 A 番 7 号

公益財団法人 大槻能楽堂

平成28年度事業計画

当能楽堂は、世界無形文化遺産である我が国の舞台芸術「能楽」を広く一般に公開し、伝統芸能の振興及び文化・芸術の普及に寄与するため、当法人が企画した公演等上演し、また、所有する能舞台等を貸与する活動を行っています。

本年度は平成27年9月に大槻能楽堂が80周年を迎えた記念として、「新春公演」と研究公演に代わる「特別公演 観世小次郎信光没後500年記念」は～大槻能楽堂80周年記念～と冠して、また、能の魅力を探るシリーズは前年度に引き続き、3公演ずつの4つのテーマに分けて、『人々は長い刻を生きて来ました。人を愛し、恋し、神を畏敬し、自然に感謝して！しかし幸ばかりではありません。過酷な人生も、悲運な人生もありました。でも人々は懸命に果たされた人生を生き来ました。このさまざまな人々の道程を振り返ってみたい。』と思い、企画して開催します。

事業ごとの主な内容は以下のとおりです。

1. 能楽公演等事業

(1) 自主公演能事業

能の魅力を探るシリーズ（年12公演）は「悠久の歴史の中で人々はこれらの世界をどう生きてきたのだろうか」と題して、4つのテーマ「—神と自然と人—・—罪と罰—・—知性と孤独—・—邪と悪と激—」に分けての演能と各テーマに沿った魅力ある狂言もテーマ毎に一番ずつ組み入れて上演します。また、本年度はテーマ毎に同じ著名な文化人・歌人・研究者を講師に招聘して、演目の解説のみならず、その曲の背景・時代・本説の物語について等のお話もあります。

開 催 日	演 目	シ テ	お 話
—神と自然と人—			中 西 進
平成28年 4月23日	夷 毘 沙 門 小 鍛 冶	茂 山 茂 茂 山 正 邦 武 富 康 之	
5月21日	山 姥	齊 藤 信 隆	
6月25日	西 行 桜	野 村 四 郎	
—罪と罰—			馬 場 あき子
7月23日	枕 物 狂 櫛 天 狗	山 本 東次郎 塩 津 哲 生 大 槻 文 藏	
8月20日	善 知 鳥	上 野 雄 三	
9月24日	求 塚	浅 見 真 州	村 瀬 和 子

—知性と孤独—			山折哲雄
平成28年10月22日	川 上 千 手	野村 萬 大槻 文藏 井上 裕久	
11月26日	楊 貴 妃	梅若 玄祥	
12月17日	船 橋	浅井 文義	
—邪と悪と激—			村上 湛
平成29年 1月28日	綾 鼓	友枝 昭世	
2月25日	砧	観世 清和	
3月25日	鈍 太 郎 鉄 輪	善竹 忠重 上田 拓司	

ナイトシアター（3公演）はゆらゆらとゆらめく蠟燭の焰に浮かび上がる夢幻のひとつときをとして、通常の照明ではなく、古、蠟燭が室内照明だった時代の形式で行う毎年恒例のろうそく能は当能楽堂発行の『世阿弥を学び、世阿弥に学ぶ』書籍出版記念として、狂言とともに1公演を上演し、3年目となる「十五夜能」と「上町塾」も開催します。「十五夜能」は公演日を十五夜に近い日に設定し、月にちなんだ能と狂言を一番ずつ上演します。月の世界へ有人飛行が行われる現代でも、月は人々を惹きつける憧れの存在です。当日は十五夜の嵯峨野へ想いを馳せて御覧戴こうと企画しました。また、ロビーにて松、月、桜、寺社、史跡…能のイメージの湧く風景を収めた公募写真展も同時開催します。「上町塾」は能・狂言をより身近に、より楽しく観・聴いて戴ければと、公演の事前に大人のための体験コーナーを設けた公演で、上演曲を能楽師が解説してから上演します。

開 催 日	演 目	シ テ	狂 言	シ テ
平成28年7月 9日 ろうそく能	野 守	浦田 保親	八 尾	茂山 七五三
9月 3日 十五夜能	小 督	多久島 利之	瓜 盗 人	善竹 忠一郎
10月 8日 上町塾	邯 鄲	赤松 禎友		

夏休みおやこ教室（8月3日公演）はお子さまの体験を中心とした、御家族揃ってお楽しみいただける催しで、ワークショップ・体験を行なった後、狂言「梟」（シテ：善竹 隆平）とストーリーが大変わかりやすく、迫力があり、スペクタルな見応えのある子供たちに人気のある能「土蜘蛛」（シテ：山本 博通）を上演します。なお、この公演は古典芸能の振興に資するものとして、公益財団法人大阪コミュニティ財団からの助成金交付が決定しています。

新春公演は吉例の二日間連続公演で、恒例の〈翁〉と人気曲の能・狂言にて新春を寿ぎます。

開 催 日	翁	演 目	シ テ	狂 言
平成29年1月3日	梅若 万三郎 茂山 正邦	玄 象	片山 九郎右衛門	素 袍 落 茂山千五郎
1月4日	大槻 文藏 野村 万作	鞍馬天狗	観世鍊之丞	鶏 聳 野村 萬斎 野村 裕基

研究公演に代わる特別公演は、能楽堂の80周年記念公演とともに観世小次郎信光の没後500年も併せて記念して開催します。世阿弥や禅竹の夢幻能路線と全く違うスペクタルな作能を創り出した信光の驚異的技法を観て戴きたく企画いたしました。

開 催 日	演 目	シ テ	お 話
平成29年 2月4日	胡 蝶 復曲 星	観世喜正 大槻文藏 大槻裕一	天野文雄 村上 湛

(2) 学生鑑賞能事業

中・高校生を対象に能楽鑑賞のほか、ワークショップ・体験教室などを併せて行います。本年度は年間5回程度行う予定です。

(3) 委託公演能事業

恒例の有馬能楽堂で催す有馬能（7月10日・8月7日・9月4日開催）・国重要文化財である春日神社能舞台で催す篠山春日能（4月9日開催）ほか公演の委託を請け負い、より多くの方に伝統芸術に触れる機会を提供しています。能楽にあまりなじみのない方でも、感動していただけるよう、また、伝統芸術の良さを理解していただけるように行います。

また、前年度に行いました文化庁の「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」は本年度も事前にワークショップ体験授業を行った上で、当日は下記公演内容で実施します。

1. 能についてDVDや写真等で学ぶ
2. 開催校の校歌をアレンジした謡に挑戦
3. 謡や囃子に合わせて能楽師と共演
4. 船頭さんに大変身！！で船頭さん体験（アイ狂言）や能面体験

5. Aコースは「船弁慶」の動きの激しい後半部分を鑑賞、Bコースは人気曲「土蜘蛛」を鑑賞。(いずれも縮小版で、クライマックスの部分を上演、嵐に遭遇した船を操る船頭の動き・長刀を持って襲いかかる知盛の演技や蜘蛛と独武者との戦いなど能楽の迫力・緊張感・静寂感などをより一層感じてもらうことができる特設能舞台での鑑賞)

また、事後学習として紙製能面を配布するので、家庭でのコミュニケーションの育成にも効果的であると思っています。本事業は、小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行うことにより、文化の担い手となる子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としており、当能楽堂では感受性豊かな子供時代に日本の伝統舞台芸術である「能楽」を知ること、将来の文化芸術に対する観賞力等が大きく向上することができればと考えています。本年度は新潟県・富山県・石川県・京都府や京都市で「船弁慶」を8公演、宮崎県や鹿児島県で「土蜘蛛」を7公演行う予定です。

(4) その他謡曲・仕舞教室事業を謡曲は一般の方を対象に前期と後期の年2回(コース別)及び大阪府教職員互助組合の退職会員を対象に年4回(3ヵ月毎)、仕舞は一般の方を対象に年1回行う予定です。

2. 能楽堂等貸与事業

(1) 能楽堂施設の貸与

伝統芸能「能楽」の振興及び普及を図るため、これを目的とする活動を行う団体や個人(この目的に賛同するものを含む。)に対して当法人が所有する能楽堂を貸与します。能楽の公演会場としては年間60回程、稽古場としては年間140回程の貸与予定ですが、能楽の公演に限ることなく、日本の様々な芸能の祖である能の本拠地「能舞台」を使用することでそのルーツを認識し、その特色を活かせる芸能活動(韓国伝統芸能であるパンソリ公演や古典舞踊公演など)に対しても貸与する予定です。

(2) その他能面・能装束及び作り物の貸与事業及び施設の貸与の一環として、ビデオの録画事業を行います。

以 上